

II. 神奈川県立婦人総合センターにおける環境保全林形成に対する生態学を基礎とした諸提案

Vorschläge standortsgemäße Umweltschutzwälder zu schaffen auf dem Grundstück des Kanagawa Woman's Center auf der Insel Enoshima

1. 立地固有の郷土林；環境保全林の必要性

Notwendigkeit der standortsgemäßen Heimatwälder, zugleich Umweltschutzwälder

江の島は神奈川県史跡名勝地に指定されているが、年々の観光客の増加に伴い、宿泊施設の拡大、増加により、今まで緑でつまれていたベールが一部はぎとられ、緑に不調和な建物が表出するようになってきた。史跡名勝としては、オリンピック用のヨットハーバーが建設されることさえも不調和で、景観を乱させたことにより、国指定の史跡名勝を解かれた。さらに、このまま放置されることは、今後神奈川県の史跡名勝の価値がなくなる危険性が高い。したがって新しい

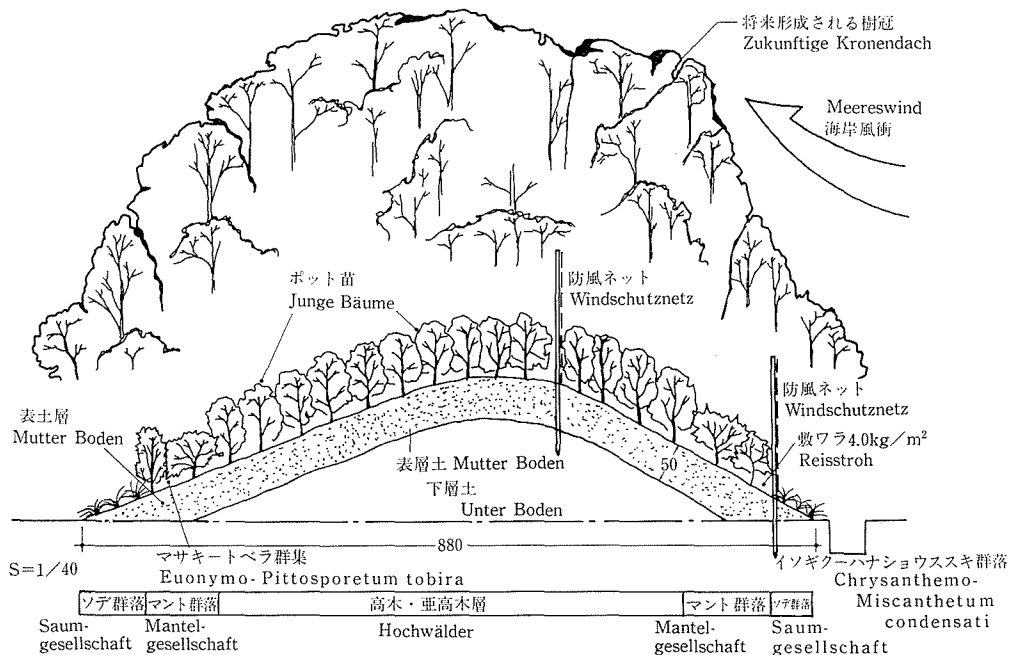


Fig. 3 マサキトベラ群集
Euonymo-Pittosporum tobira

建造物を建設する際には、周囲より建造物が緑でおおわれ、緑濃い空間の中に建造物が包まれて存在する景観が望まれる。建築物もできるだけ周囲の自然に溶け込む色、材質を用い、長くあきのこない、自然と一体化した建物となることが理想とされる。

江の島は自然環境の上でもきわめてきびしい条件下にある。江の島南面、南東斜面に、ヤブコウジースダジイ群集や、イノデータブノキ群集などの常緑広葉樹高木林が発達せず、強い海からの潮風、風衝に耐えて生育しているイソギクハチジョウススキ群集の草原や、マサキートベラ群集の低木林の分布より理解される。したがって、島部では、建築物を建設する際には、植生が示す厳しい環境には一切手をふれず、また、現在残っている自然植生域に対しても聖域として、誰も破壊しない、手をつけない配慮が必要とされる。現在代償植生で占められている地域では、立地保全のためにも周囲に緑の帯を復元、創造したい。

江の島東部の埋め立て地では、新しく建築物を建設する際に外部から丸見えの状態では、自然と不調和をきたす。したがって、立地に適した種による江の島の自然林を創造し、環境保全林として島を埋め、建築物がみえないようにする。陸や海から見た江の島は、内部はどんなに近代化されても、周囲は常に緑におおわれた、昔からのふるさとの緑を残した、遺伝子資源の場として子孫代々引きついでゆきたい。

江の島の植物相においても神奈川県下の他にみられない種も含めて、南方系の植物が、よく保存されている。したがって、相模湾に残された史跡名勝地であるとともに遺伝子資源保存の場 (Gene pool; ジーン プール, Löve 1977) としても立地固有の郷土林形成が必要とされる。

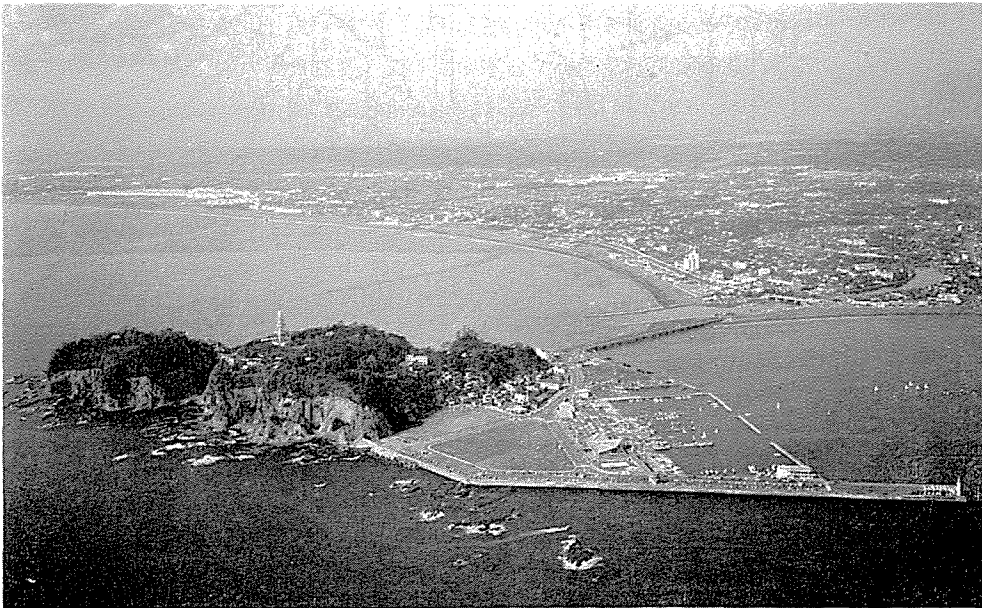


Fig. 4 工事前の江の島 (1981年)

Übersicht der Enoshima in 1981. Vor dem Bau des Kanagawa Woman's Center.

2. 江の島の立地図

Standortskarte der Insel Enoshima

江の島東部は、1964年に細砂や粗砂を主体にして埋め立てられた地域である。深さ3.5～5 mに細～中礫、大礫、貝殻片、雲母片が混入した暗灰～暗褐色の細～粗砂を基盤にしており、1981年調査当時にはイソギク、ギョウギシバ、ハマスゲ、ハマヒルガオなどの砂が安定した立地の砂丘植生が生育していた。また一部ススキなどもみられ、砂地とはいえ、砂の動きが通常時（台風時や強風時には砂の動きがはげしいが、特別な時を除き）は少ない。したがって潜在自然植生としては、マサキートベラ群集を支える能力がある。さらに人為的に表層土を復元し、現在の気候下で最高条件の植生を復元あるいは創造することを想定した立地図——植栽可能図では、マサキートベラ群集は、東部埋立地の周縁に発達し、内部にはイノデータブノキ群集が生育するものと判定される。

1) イノデータブノキ群集

Polysticho-Perseetum thunbergii, wenn ein Damm mit genügend Mutterboden aufgebaut ist, und wenn sich an der Meerseite als Mantelgesellschaft das Euonymo-Pittosporium tobira gebildet hat.

埋め立て地の砂土だけでは、富養土もなくイノデータブノキ群集の生育は困難である。したがって、排水をよくするためにマウンドを築き、表層土を復元する。このようなところでは、海岸より常に空中湿度を高める水分がおぎなわれるため、風衝を強く受けとめられるマサキートベラ群集のマント群落を設置することにより、発達可能となる。とくに平坦地であるため、初期は風衝に対しての考慮を十分に与えなければ森林の成立は困難である。江の島についての、植栽可能種は、Tab. 1 に示されている。

2) マサキートベラ群集

Euonymo-Pittosporium tobira, wenn mit Meerwasser gegossen wird, muß das Salz ausgewaschen werden, bis etwa ein Jahr nach der Pflanzung die Wurzeln gut entwickelt sind.

江の島では台風時に風速40km以上の強風が直接ぶつかり、径3m以上の大石を動かすことがあるという。したがって、現存植生や潜在自然植生に示されるように、南面と南東面の風衝に対しては、細心の注意が必要とされる。自然に成立した林分では、2歩前進、1歩後退で、自然に徐々に林分を大きくするが、人工的な植栽により自然植生を創造するためには、台風通過直後のような特別な潮風があった際には、植栽後1年目はスプリンクラーなどで、潮をある程度洗い流すことも必要とされる。また環境が厳しく、弱っている時には虫にもつかれやすいため、防虫

対策も必要とする。しかし、2年時以後、1夏、1冬越したあとは、潮に対する耐性もできるため、ほとんど管理は必要とされなくなる。

江の島におけるマサキトベラ群集の植栽可能種一覧は Tab. 1 に示されている。

3. 環境保全林成形に対する具体的提案

Konkrete Vorschläge um Heimatwälder zu schaffen

環境保全林は、幅が狭くとも4層群落を形成する“もり”形態が望ましい。したがってわずかな幅の林縁を除き、中央部は将来高木になる樹種を選び密植する。最初から高木と低木を組み合わせると、早く森林が形成されるが、江の島のような風衝が強い立地では、将来高木に生長する幼木を植栽して、気候に慣れさせ大きくする方が、早く生長する。したがって環境保全林形成には、1) 植栽樹種の選定、2) 植栽配置、3) マウンド形成、4) 植栽法、5) マルチング、6) 植栽後の管理などが基本的問題となる。

1) 植栽樹種の選定 Auswahl der zu pflanzenden Baumarten

江の島の潜在自然植生は、南面の風衝が強い面では、イソギクハチジョウススキ群集で代表される風衝草原、マサキトベラ群集で示される風衝低木林、さらに尾根状地ではヤブコウジスダジイ群集、凹状の土壌堆積の良好な立地にイノデタブノキ群集が分布している。しかし、風背地側の江の島神社に至る北側階段付近には、オリヅルシダ、ホソバカナワラビなどの暖地生シダ植物が生育している。また林内にはノシラン、ハナミョウガなど南方生植物や、二次的低木林にハチジョウウキブシ（エノシマキブシ）などが生育し江の島のフロラが暖地性であることを示している。したがって、植栽可能樹種は、広く太平洋沿岸部の風衝低木林構成種と、一部伊豆半島、房総半島に共通するホソバカナワラビスダジイ群集構成種を植栽することが可能である。

立地図にしたがって、マサキトベラ群集構成種を植栽可能な地域は、マサキ、トベラ、マルバノシャリンバイ、マルバグミなどの風衝低木に、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、モチノキなど葉肉の厚い、風衝に強い樹種を混植する。マサキトベラ群集は立地図の色別された地域に限らず、前縁に風衝をさえぎる建物や障害物がなく、直接海風を受ける地域では必ず設置する必要がある。植栽可能種は Tab. 1 の低木層に示されている。ウバメガシの自生地は伊豆半島が南限となっているが、房総半島の清澄山に二次的に広がっており、また同じく西日本に生育するハマヒサカキとともに庭園樹や、沿岸部の植栽樹種として用いられ、生育状態が良好であるので、江の島においても植栽可能である。ハマビワは、日本海型気候下における空中湿度が高い地域の海岸風衝低木林構成種である。島根半島が東限となっているが葉肉が厚いこと、江の島のように風衝は強いが空中湿度が高いということで、植栽種に組み入れられた。

立地図におけるイノデタブノキ群集は、高木林形成地であり、タブノキ、スダジイを中心とする地元の樹種に、ヤマモモ、クスノキ、クロガネモチなどが高木種として植栽可能である。タ

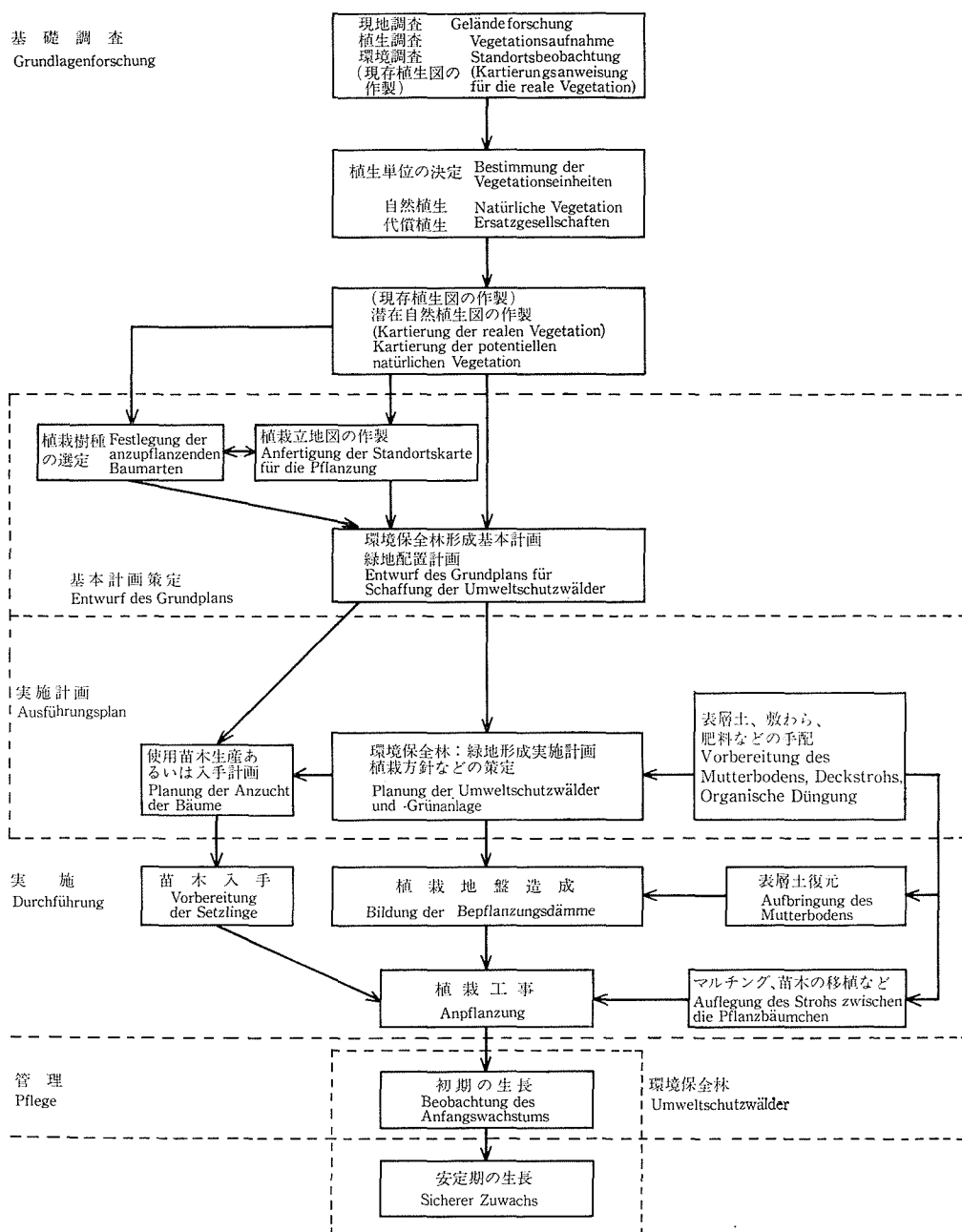


Fig. 5 神奈川県立婦人総合センターにおける環境保全体、保全緑地形成のための植物社会学的方法とシステム。

Arbeitsprogramm für den Aufbau von Umweltschutzwäldern und Grünanlagen in der Insel Enoshima und ihre Erhaltung.

Tab. 1 神奈川県立婦人総合センター（江の島）植栽可能種一覧
Übersichtstabelle der geeigneten Arten für “Kanagawa Woman's Center der Enoshima”

階 層 Schicht	植 栽 種 Geeignete Arten für Pflanzung
高 木 類 (環境保全林主木) Höchwüchsige Bäume für Umweltschutzwälder, höhere Hecken	ス ダ ジ イ <i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i> タ ブ ノ キ <i>Persea thunbergii</i> ヤ マ モ モ <i>Myrica rubra</i> ク ス ノ キ <i>Cinnamomum camphora</i> ク ロ ガ ネ モ チ <i>Ilex rotunda</i> (ホ ル ト ノ キ) (<i>Elaeocarpus sylvestris</i> var. <i>ellipticus</i>)
亜 高 木 類 (環境保全林補助木) Mittelhochwüchsige Bäume	シ ロ ダ モ <i>Neolitsea sericea</i> ヤ ブ ニ ッ ケ イ <i>Cinnamomum japonicum</i> ヤ ブ ツ パ キ <i>Camellia japonica</i> モ チ ノ キ <i>Ilex integra</i> ヒ メ ユ ズ リ ハ <i>Daphniphyllum teijsmannii</i> イ ス ノ キ <i>Distylium racemosum</i>
低 木 類 (マント群落, 生垣・立地図に) おけるマサキートベラ群集域 の植栽可能種 Sträucher(Geeignete Arten für die Mantelgesellschaft auf Euonymo-Pittosporum tobira Areale in der Standortskarte)	マルバノシャリンバイ <i>Rhaphiolepis umbellata</i> var. <i>integerrima</i> マ サ キ <i>Euonymus japonicus</i> ハ マ ヒ サ カ キ <i>Eurya emarginata</i> ウ パ メ ガ シ <i>Quercus phillyraeoides</i> ハ マ ビ ワ <i>Litsea japonica</i> モ チ ノ キ <i>Ilex integra</i> ヤ ブ ツ パ キ <i>Camellia japonica</i> ヤ ブ ニ ッ ケ イ <i>Cinnamomum japonicum</i> サ ザ シ カ <i>Camellia sasanqua</i> マ ル パ グ ミ <i>Elaeagnus macrophyllum</i>

() は風衝に弱い種 ; Gegen Salzwind empfindliche Art.

ブノキ, クスノキは植栽直後は枝葉を横にのばし, 葉ばりがよく, 樹幹もしっかり大きくなる。しかし, 植栽後 3 年以後では, マウンドや斜面の傾斜地上部で, スダジイが安定し伸長する。それまで負けていたタブノキやクスノキを追いこして生長する。したがって多くの樹種を選びたい。そのためにはシロダモ, ヤブニッケイ, ヤブツバキ, モチノキ, ヒメユズリハ, イスノキなどの亜高木も樹種として選び混植する。

2) 植栽配置 Verteilung der Pflanzbäume

植物は互いに光合成による有機物形成のための光に対する競争を行なっている。高木に生長する能力をもった樹種は互いに, 自分の能力のかぎり, 光に対しての空間を確保するために生長する。したがって, 光に対する競争に遅れた植物は, 下層を形成するか, 細いまま他の植物に埋もれてしまう。また種の性質により, クスノキ科の植物——タブノキ, クスノキ, ヤブニッケイ, シロダモなど——のように, 植物の生長初期に葉張りをもち, 空間をまず埋め, 互いに葉をふれあわせながら生長する樹種と, 年間 1 m 近く上向生長する枝をもつブナ科のスダジイ, シラカン

などの植物がある。互いに樹種が異なると、光に対する競争力、空間の埋め方が異なり、多層群落が形成される。したがって、植栽地周辺にはマント群落の役割を果たす低木を、面積狭く密植し、それ以外には主木となる樹種をランダムか、あるいはちどり状に植栽し空間を多様に埋め、光に対し競争させて伸ばすことが必要とされる。隣合わせになる樹種はできるだけ同種にせず、異種を組み合わせることが基本条件である。

3) マウンド形成 Aufbau des Pflanzungdammes

植物は、排水良好な立地では、少々の乾燥に対しては強い生命力により生長するが、排水の悪い立地では生長が劣える。したがって平坦地に植栽する際には必ず斜面を造成する——すなわちマウンドを形成して植栽することが望ましい。マウンドの基盤は産業廃棄物、捨土、家庭廃棄物など何を利用して可能である。高く盛る場合は廃棄物上に土をかけまた廃棄物をのせるというくりかえしを行なう。江の島婦人総合センター敷地では、建設時の掘りとり残土が基盤土として用いられている。基盤土上にさらに山土を 50cm、表層土を 30cm 載せることによりマウンド形成ができる。全体の形は、必ずカマボコ形から三角山形ができるように、斜面角度が傾斜 20°以上の斜面を形成し、凹状地などができないように工夫する。必ず全体に傾斜をもつようにすることが基本条件となる。

4) 植栽法 Pflanzweise

植栽に際しては密植法をとる。植物を育てるためには、初期に種子の密植播種を行ない、発芽後間引きを適度にしながら植物を大きく育てる方法が従来から行なわれてきた。実際に野外の植物の生育をみると、人為的間引きの時期は、自然淘汰により減少していくのがみられる。東京農大の杉二郎教授の談では、マングローブの発芽実験を行なうと、種子を単植するよりも密植した方が、発芽状態が良好になるという結果がでている。さらに杉教授は種子や植物は互いに化学的物質を出し合いながら生長してゆくのではないかと仮説をたてられた（1983年 11 月 10 日横浜国大—ザールランド国際シンポジウム会場にての杉、藤原との Discussion）。我々の植栽結果による調査結果においても密植を行なった方が生長がよい結果がでている（Fujiwara, K. 1983, 宮脇・藤原・木村 1984）。したがって、材として活用するためには間伐の必要があるが、森林を発達させるためには間伐の必要はない。間伐を行なうことにより、雑草が生長し、空間を埋めるために 3～4 年かかる。間伐量が少なく、1 本除いても、他の樹木が葉がふれ合う場所では、上手く、間伐後（この場合は抜きとりした跡）も森林が持続した例はある（関本田枝研栃木ブルーピング・グラウンドにおける 1984 年 3 月の調査例、未発表資料）。間伐あるいは抜きとりには必ず空間をつくらないことが重要である。空間が作られることにより、雑草が侵入し、森林としてのバランスがくずれる。

密植の密度は、一般的には 1.5～2 本/m² が妥当である。これは経済的に植栽のみ考えた際に、

2～3 mの成木を 1 本/m² 植栽し、大地の空間を緑が埋めるまでの時間雑草を毎年ぬきとる管理を行なう例との対比では、経済的にも幼苗密植が安価である。

幼苗はポット苗を利用する。一般に苗木の場合は根が活着してから生長をはじめ、また夏緑広葉樹以外は、生長が根の長さだけ上部に早くのびる (Fujiwara, K. 1983)。ポット苗は、主根を切らずにポットの中で十分充満させたものである。一般の苗木は移植の際に根まわしをして一度根をとめてしまう。したがって移植後の植物の年間生長は少なくなる。ポット苗の0.3～0.8 mものが2～3年後には、植栽時2～3 mの大きさであった苗木を追い越し生長する。

植栽後の美観を重んじ、さらに森林形成を行なう際には、費用はかかるが2～3 mの苗木とポット苗を組み合わせ植栽すると効果的である。しかし、あくまでも美観の問題で、0.3～0.8 mのポット苗を密植する方が、もりづくりは早い。

江の島はきわめて風衝が強い立地であるため、高木植栽が厳しい立地条件にある。したがって、ここではマウンド上のとくに風衝が強い立地では高木構成種4に対し風衝低木3の超高密度植栽を行なった。建物の後背地である風衝の弱い立地でも高木4、低木3の樹種の割合で植栽している (p. 26)。

ポット苗植栽においては、ポット苗の植栽基準は、1) ポット内の主根が切られず、主根、側根とも充満していること、2) ポット苗の樹姿がよく活力があること。樹幹の下枝や葉が落ちた棒状苗は、栽培途中の水分の不足や、ポットの入れかえ（苗が大きくなってもポットの大きい器に移しかえが遅れた場合）が不調和で密生させたポットのままにしておいたなど、管理の不都合さがでていいるものは下からは葉が再生しにくい。3) 頂枝を切っていないこと。などがあげられる。宮脇・藤原・木村 (1984) で1976年に植栽したポット苗の内、これら3条件に合わない苗（とくに3）の条件が合わない苗にチェックをしておき、その後1984年4月に調査を行なった結果、樹高は10cm だけ、当時良好とした苗の方がのびていたが、幹囲は、頂枝は分かれていたが、幹がしっかりした苗の方が大きかった結果が出た。総体的に比較すると、まず根の発達がよいことが第1条件となり、あとは苗木の時にしっかりしているものは、大きく生長できることが理解された。

植栽時には、植穴はポット苗の鉢径の2～3倍程度で深植えにならないように、苗の根鉢の肩が1～2 cm 地盤からでる程度に植えつける。堀り上げた周囲の土を埋戻し、根鉢の肩が薄くかくれる程度に覆土する。その際、踏み固めないように注意する。表層土が土壌改良が十分行なわれていない際には、植え穴に少量の粒子状の肥料を入れ、土とよく混合してから苗を植栽する。

5) マルチング Strohbdeckung

ポット苗植栽後、土壌からの水分の蒸散をおさえること、雑草の生育防止、厳寒時の保温効果、雨水による土壌流水の防止、さらに腐植して有機質となり土壌に還元が可能となるなど様々な条件を満たす稲藁わらを4 kg/m²、束のまま斜面に直角に敷く。わら止めは、シュロ縄などに

より、わら束の両端を押え、竹串あるいは針金（＃8～10）で押えて縄の固定を行なう。またわら束の先端部と後端部を重ねると効果的である。

最近は敷きわらが入手しにくいためパークを使い敷わらのかわりにしているが、急傾斜地においては、流出しやすい。また雑草の生育も多い。現在の段階では敷わらが、もっとも効果的なマルチング法である。

6) 植栽後の管理 *Pflege nach der Pflanzung*

ポット苗の植栽後、苗が植栽された土地の土壌、気候などの環境条件になじむまでの間の約2～3年間は、必要に応じて除草、灌水、施肥、病虫害駆除などの管理を行う。

a. 除草作業：林冠がうっ閉するまでの間、光に対して表層土の養分を吸収した雑草がきわめて繁殖しやすい。幼苗はとくに光が多く当たることにより、より早く生長する。したがって、苗が雑草の陰になり光の量が減ると生長量がそ害されるので雑草の抜き取り作業が必要とされる。敷わらが多ければ多いほど雑草は生育しにくいですが、出た雑草については、年間2～3回除草する。密植度、生長量によっては2夏で除草作用が不必要となる場合が多い。除去された雑草は林内に放置し、土壌に還元する。除草剤は生態系のバランスをくずすため、一切使用しない。

b. 施肥作業：苗の生育促進を図るため、冬季には寒肥として遅効性肥料を施肥し、土壌の保温効果をあげる。さらに夏季の生育促進のため、梅雨前の5～6月に追肥として遅効性肥料の施肥を行なうと効果的である。

c. 灌水作業：マルチングによりほとんど必要とされないが、数ヶ月もつづく特別な干ばつ時や、きわめて強い台風が新芽時に襲来した時のような場合、現況判断により特別な場合のみ適時灌水を行なう。

d. 病虫害駆除作業：ポット苗植栽は、自然的管理を基本とするため、特に薬剤による防除は行なわないようにするが、病虫害の多発時に限り適宜駆除する。

e. 剪定作業：環境保全林形成では、一切剪定を行わず、自然の生長にまかせる。枝が伸びて日常生活に大きな被害が出た時のみ枝おろしなどを適宜行う。ただし冬季の植物の冬眠期や梅雨前に行なう。

4. 神奈川県立婦人総合センターにおける郷土の森の創造

Schaffung der Heimatwälder in Kanagawa Woman s Center auf der Insel Enoshima

神奈川県立婦人総合センターの立地は、海岸風衝がきわめて強く、また潮がもろにかぶる地域でもある。したがって、植栽予定地によっては樹種、植栽密度などを適宜選ぶ必要がある。

1) 風背地における植栽 (Fig. 7～9, 13, 14)

神奈川県立婦人総合センター建設地では、小空間の中でできるかぎり多層群落が形成されるよ

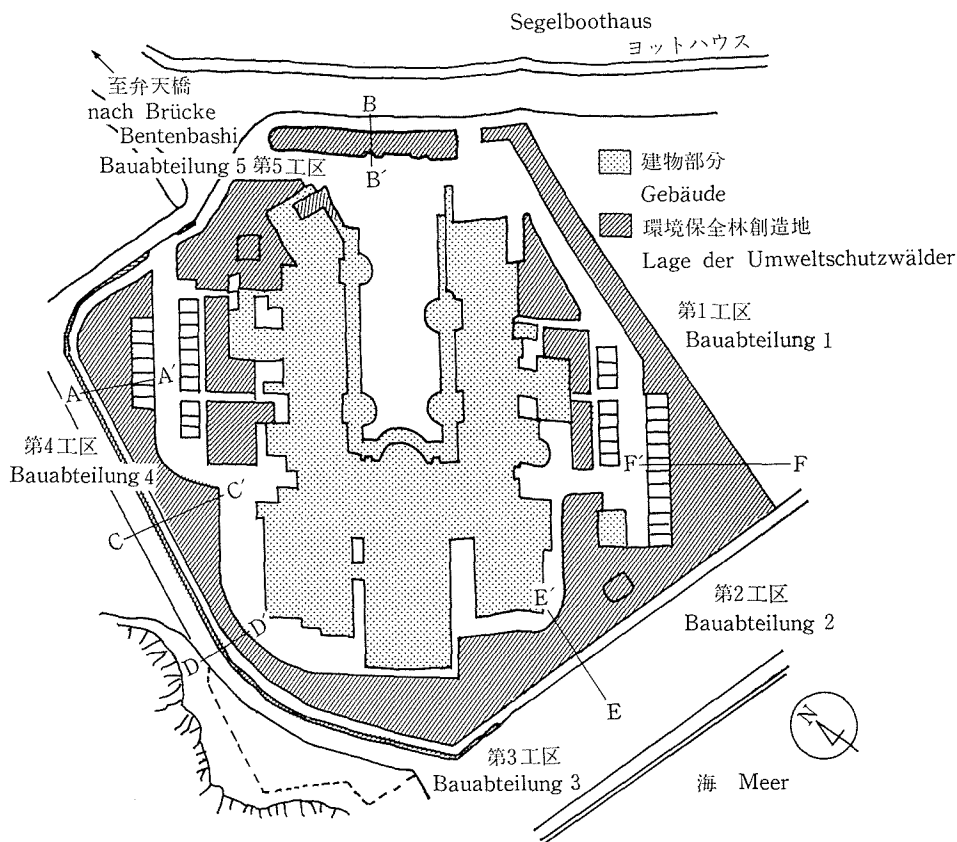
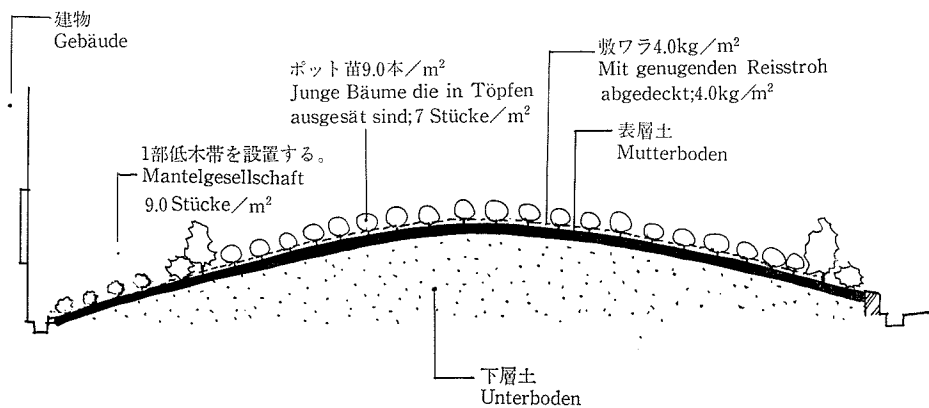


Fig. 6 神奈川県立婦人総合センター配置図

Lage der Profile der Heimatwälder des Kanagawa Woman's Center (vgl. Fig. 7~12)

う計画された。風背地では、イノデータブノキ群集や、ヤブコウジスダジイ群集を創造できるように、マウンド周囲は、低木のトベラ、シャリンバイ、ハマヒサカキなどをマント群落として植栽し（1 m間に幅 30 cm 以内で 4.5 本、9 本/m²）、さらに高木類はスダジイ、タブノキ、ヤマモモ、ヤブツバキ、サンゴジュ、トベラなどを混植し、7 本/m²の密植を行う。密植により植栽時にすでに葉がふれあい、ある程度の景観を保つ効果がある。Fig. 7 は駐車場周辺の環境保全林が示されている。車の進入口などの見通しをよくする所では Fig. 8 のような低木の密植を行なうことも可能である。マウンドの面積が狭い場合でも Fig. 10 の D—D' のように高木を密植することは可能である。

もっとも風衝が強い第2工区、第3工区では、可能であれば石垣を高くすることが必要とされる。しかし石垣をマウンドの高さまであげられないときには、南斜面では、トベラ、シャリンバイ、ハマヒサカキ、ハマビワなどの風衝低木類を多くする。後背部の高木林のマント群落を形成



植 栽 直 後
Unmittelbar nach der Pflanzung

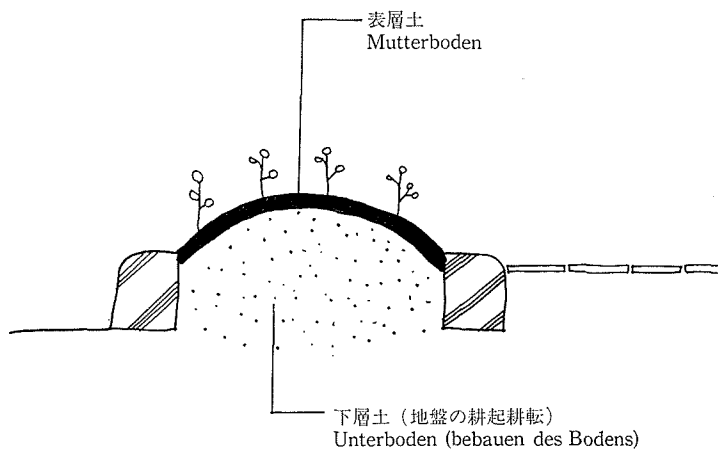


Fig. 7 A—A' 断面図

Schematische Darstellung des Umweltschutzwaldes (A—A', vgl. Fig. 6)

することにより、潮風に耐えられるようにする。もっとも面積の広い F—F' (第2工区) は大きな境界環境保全林の形成が可能である。

マウンドはできるだけ急勾配が望ましく、神奈川県立婦人総合センター建設地では、30° 傾斜以上になるように努力され、土木技術的に可能なだけ急傾斜のマウンドが築かれている。具体的植栽配分平面図は Fig. 13, 14 に示されている。



植栽直後
Unmittelbar nach der Pflanzung

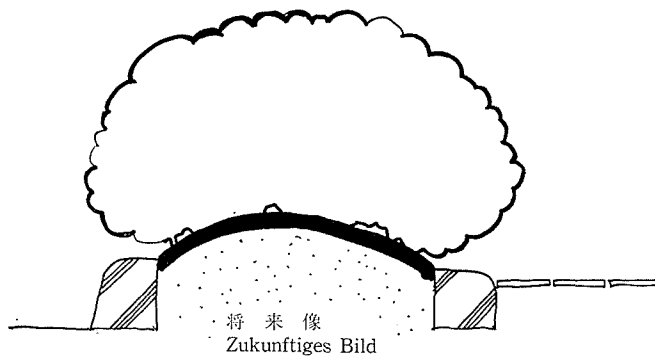


Fig. 8 B—B' 断面図

Schematische Darstellung der Grünenanlage (B—B', vgl. Fig. 6)

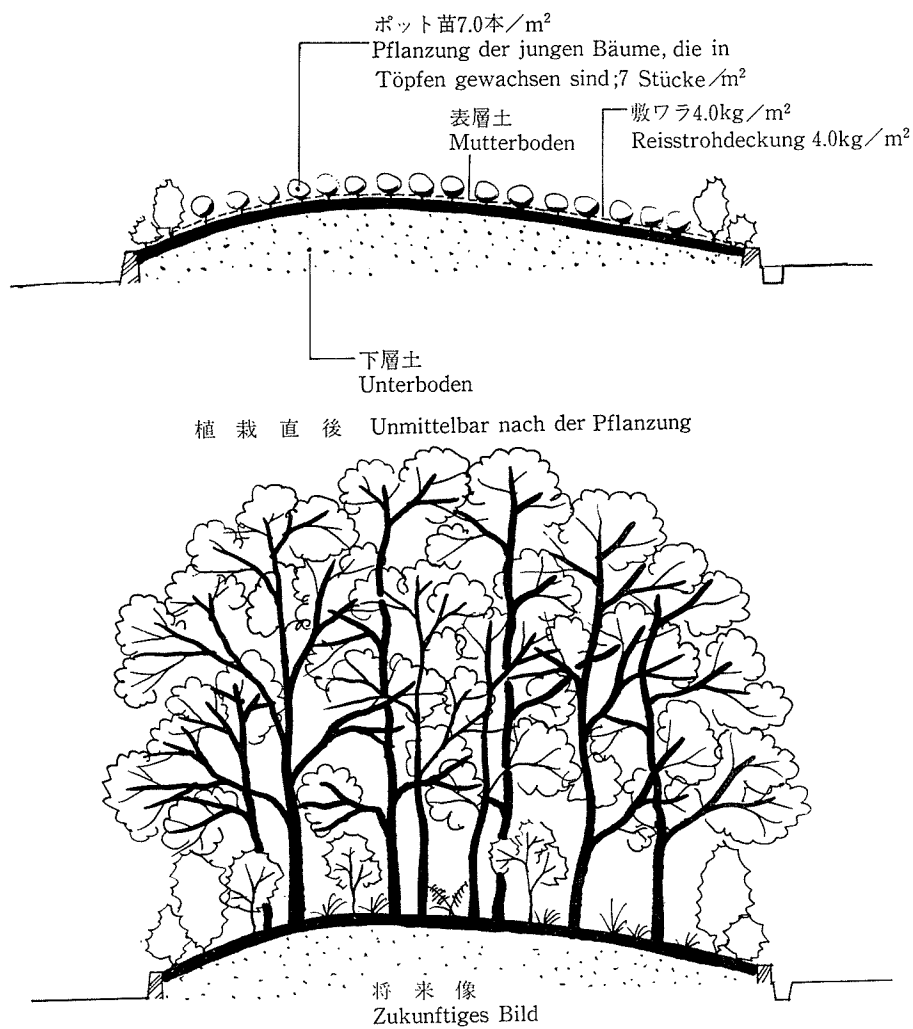
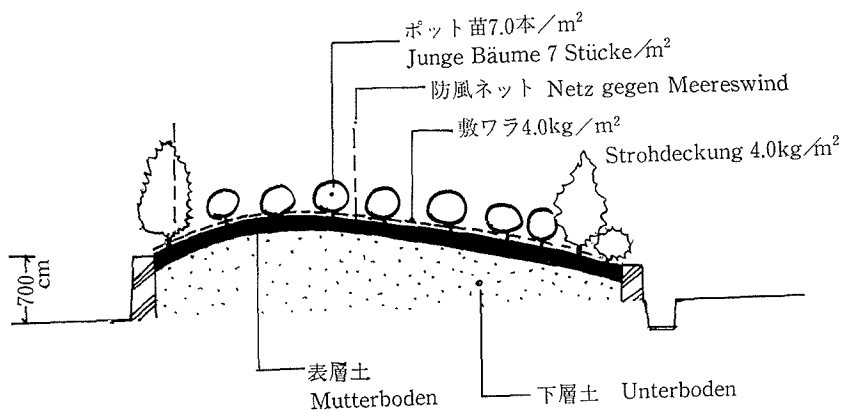


Fig. 9 C—C' 断面図

Schematische Darstellung des Umweltschutzwaldes (C—C', vgl. Fig. 6)



植栽直後
 Unmittelbar nach der Pflanzung

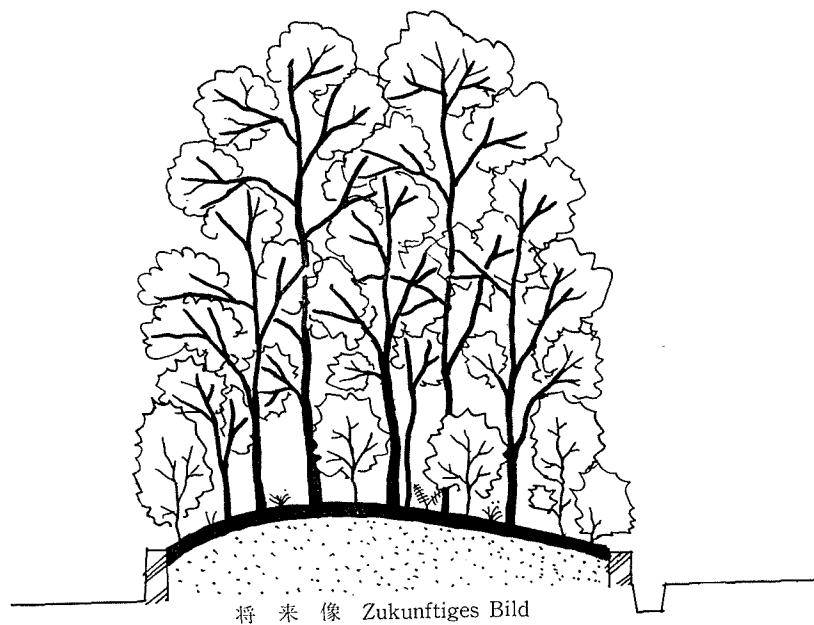
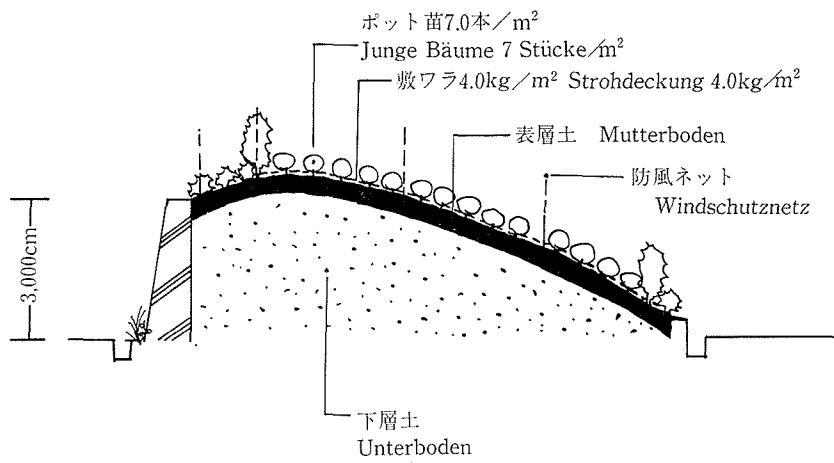


Fig. 10 D—D' 断面図

Schematische Darstellung des Umweltschutzwaldes (D—D', vgl. Fig. 6)

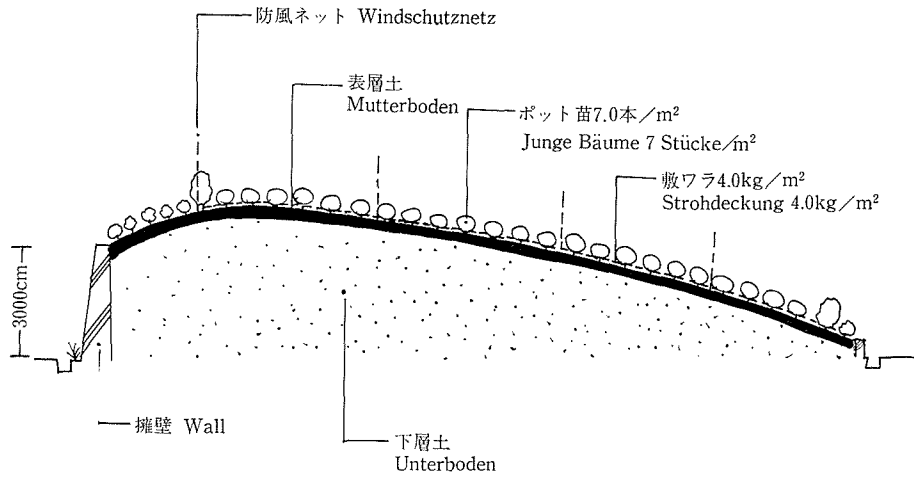


植栽直後 Unmittelbar nach der Pflanzung



Fig. 11 E—E' 断面図

Schematische Darstellung des Umweltschutzwaldes (E—E', vgl. Fig. 6)



植栽直後
Unmittelbar nach der Pflanzung

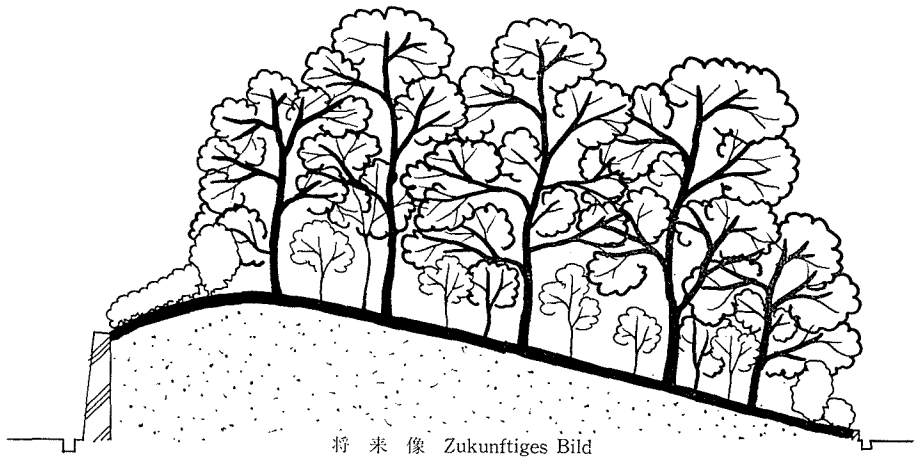


Fig. 12 F—F' 断面図

Schematische Darstellung des Grenzumweltschutzwaldes (F—F' vgl. Fig. 6)

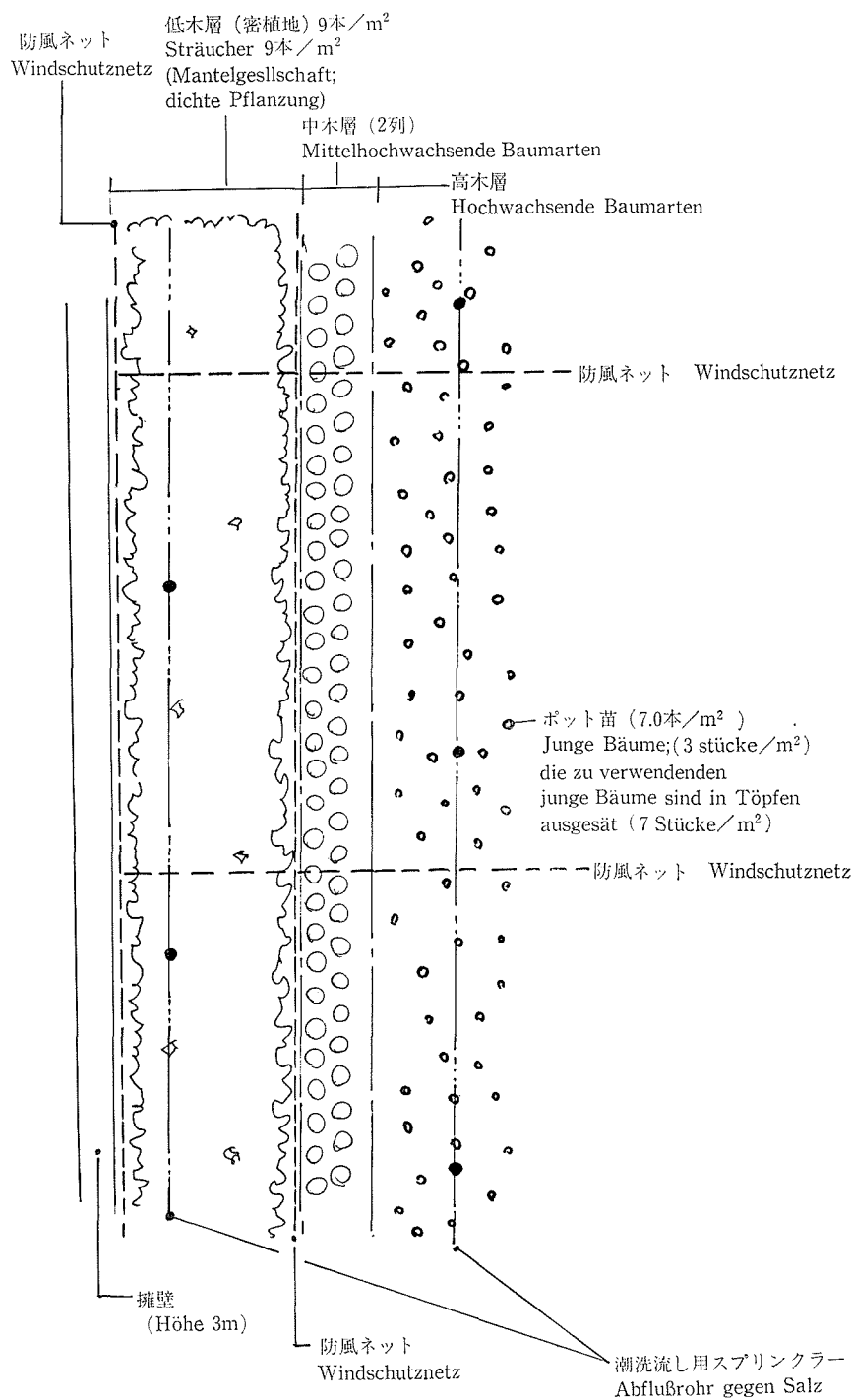


Fig. 13 E, F の平面図 (概略)

Der Grundriß des Umweltschutzwaldes (E und F, vgl. Fig. 6)

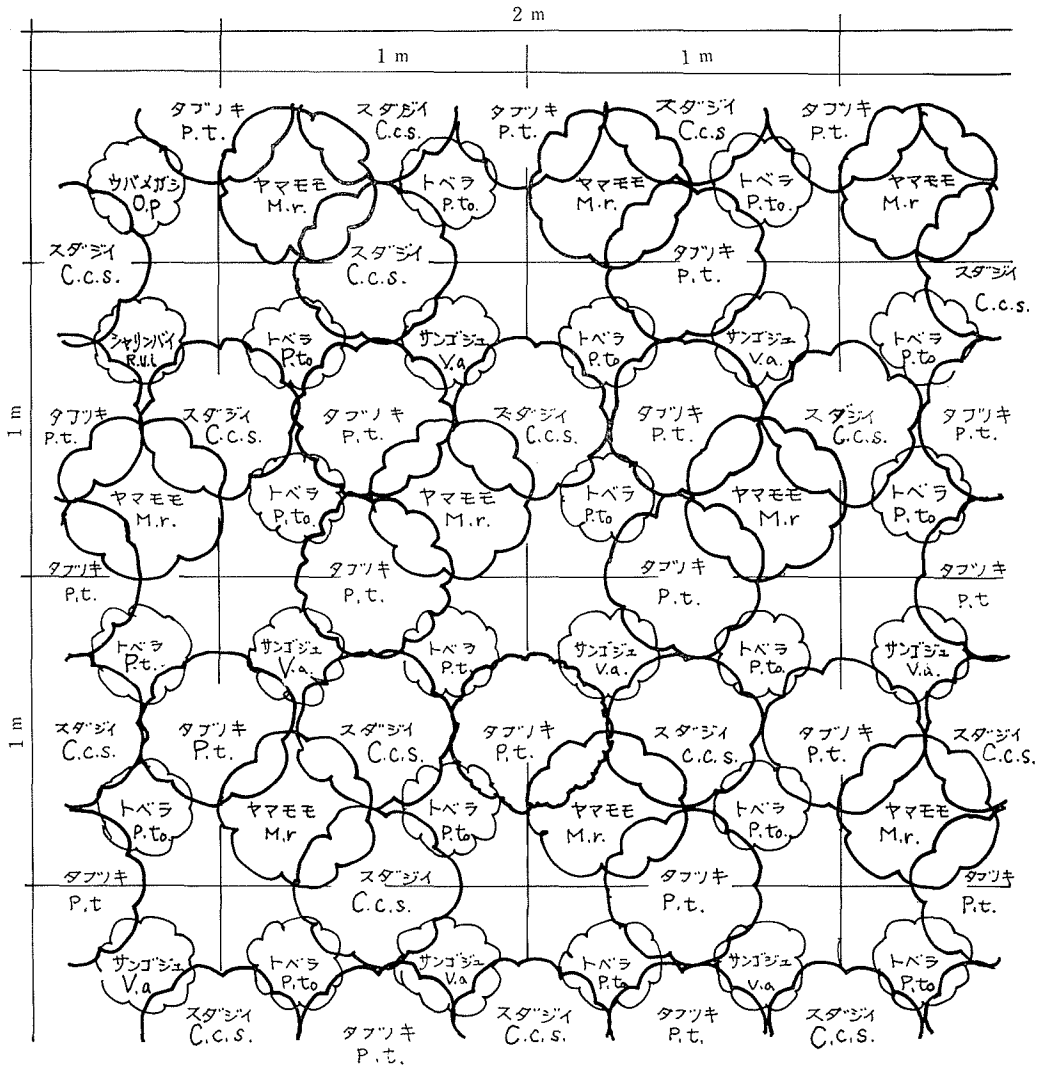


Fig. 14 植栽配分平面図 (風背地: 高木植栽)

Der Grundriß für Bepflanzung (hochwüchsige Bäume)

P. t. : *Persea thunbergii*, C. c. s. : *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*, M. r. : *Myrica rubra*,
 P. to. : *Pittosporum tobira*, V. a. : *Viburnum awabuki*

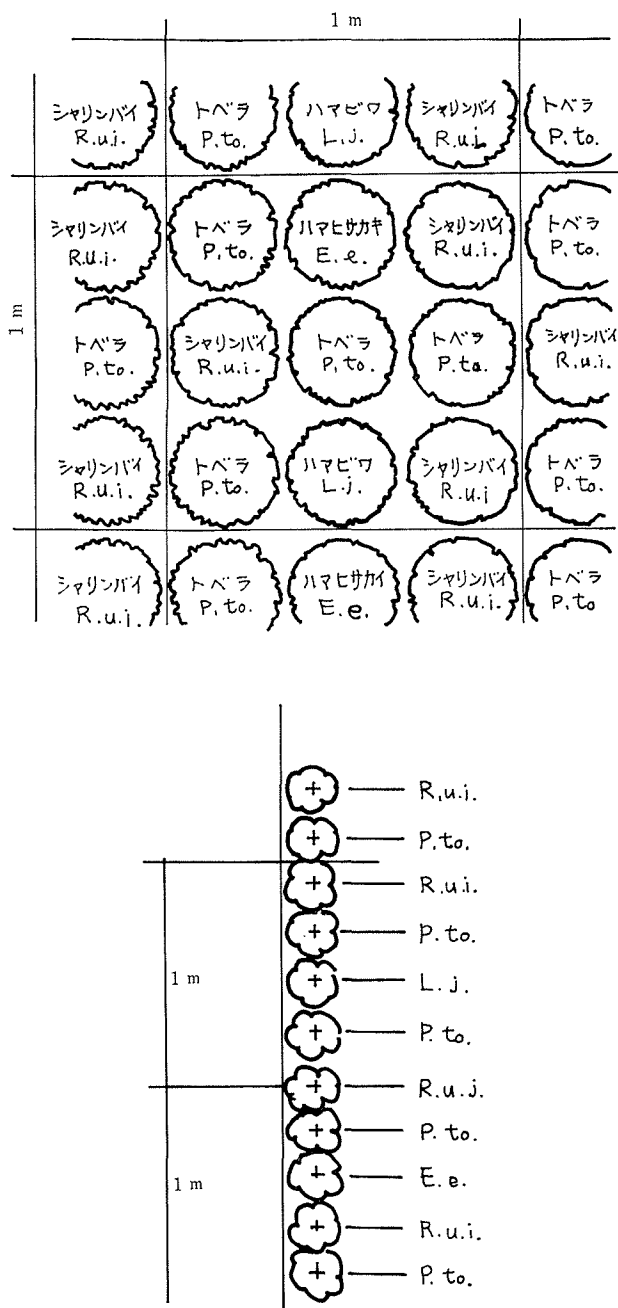


Fig. 15 植栽配分平面図 (風衝地: 低木植栽)

Der Grundriß für Bepflanzung (Windexponierte Stelle, Bau-Abteilung der Mantelgesellschaft)

R.u.i. : *Raphiolepis umbellata* var. *integerrima*, P.to. : *Pittosporum tobira*,

L.j. : *Litsea japonica*, E.e. : *Eurya emarginata*

Tab. 2 県立婦人総合センター境界環境保全林植栽樹種の比率（7本/m²）
 Prozentsatz der gepflanzten hochwüchsigen Baumarten in Kanagawa
 Woman's Center (7 stuck/m²)

樹 種 名 Baumarten	本 数 Zahl. d. Bäumen	比 率(%) Prozentsatz
タ ブ ノ キ <i>Persea thunbergii</i>	7.0	25
ス ダ ジ イ <i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	5.0	18
ヤ マ モ モ <i>Myrica rubra</i>	4.0	14
ト ベ ラ <i>Pittosporum tobira</i>	8.0	29
サ ン ゴ ジ ュ <i>Viburnum awabuki</i>	4.0	14

Tab. 3 県立婦人総合センター境界保全林林縁植栽樹種の比率（9本/m²）
 Prozenteatz der gepflanzten Straucharten in Kanagawa
 Woman's Center (9 stuck/m²)

樹 種 名 Baumarten	本 数 Zahl. d. Bäumen	比 率(%) Prozentsatz
ト ベ ラ <i>Pittosporum tobira</i>	4.0	45
シャリンバイ <i>Rhaphiolepis umbellata</i>	3.0	33
ハマヒサカキ <i>Eurya emarginata</i>	1.0	11
ハ マ ビ ワ <i>Litsea japonica</i>	1.0	11